

明野歴史民俗資料館では、現在、第10回企画展「水にまつわる話」を開催しています。

明野を含む茅ヶ岳山麓は、かつては水を得るのが難しい土地でした。そのような環境の中、人々は生活をするために水を得る努力をしてきました。江戸時代には浅尾堰や穂坂堰（朝穂堰はこれら2つを統合した堰）、両村堰という堰を作り、田畑の収穫量を飛躍的にのばしました。現代に至っても、安全な生活用水を得るために簡易水道を造り、10年前には、安定した生活用水や農業用水を得るために、塩川ダムが完成しました。これらの水を得る施設は、どれも現在も使われています。

今回は、昭和50年前後に造られた簡易水道についてお話したいと思います。



## 新企画展「水にまつわる話」

期間：4月26日（土）～9月12日（金）  
皆様お誘い合わせの上、どうぞ来館下さい。



昭和40年代初頭まで、生活用水には湧水や小川・堰などの浸透水、井戸水などが使われていたため、水量は安定せず、常に不足していました。それを打開し、且つ衛生的な水を供給するために、昭和40年代に深層地下水のボーリング工事が行われました。昭和46(1971)年には、上神取地区諏訪原と小笠原地区の旧小笠原小学校裏で揚水がありました。この小笠原地区の揚水を水源として、小笠原地域と朝神地域の一部を給水域とした簡易水道が造られ、昭和48(1973)年1月から給水が開始されました。昭和47(1972)年には辺見地区、48年には中込地区と浅尾原地区で水源が発見され、順次、簡易水道の給水域が広がりました。これら5ヶ所の水源によって、明野全域が簡易水道の給水域となり、昭和52(1977)年8月、全村水道完成記念式典があげられました。

揚水し、簡易水道が造られることになった時の喜びの声が、当時の「広報あけの」に載っています。ボーリングの成功を記念して明野の子ども達に募集した作文を

読んでみると、きれいな水のプールに入れるようになること、一日に何度も水を運ばなくてすむようになることなど、自分達の生活が文字通り「潤う」ことの喜びが書かれています。（「広報あけの」の紙面も企画展で見ることができます）



現在も、簡易水道は塩川ダムの水とあわせて、私達に生活用水を供給してくれています。水を得た時の喜びを忘れずに、大切に使いしていきたいものです。

企画展では、簡易水道が造られる前に使われていた井戸や、その他、水に関わる民具を多数展示しています。ぜひご覧になって、そして皆さんの「水にまつわる話」を聞かせてください。